

「ソフトウェア活用」シラバス

学科	商業科	学年	3年	類型		組	5組	単位数	3
使用教科書	ソフトウェア活用（実教出版）								
副教材等	全商情報処理検定模擬試験問題集 1級ビジネス情報編（東京法令出版）								

1 学習の到達目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- ② 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- ③ 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習評価

次の三つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめりごとに、下記の評価項目により、観点別評価と100点法の評価をする。学年末において、観点別評価を5段階の評定に総括する。

知識・技能	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けているか。	(1)(2)(6)(9)
思考・判断・表現	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしているか。	(1)(2)(4)(5)(7)
主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。	(2)(3)(4)(5)(6)(7)(8)(9)
評価方法	主な評価項目	
ペーパーテスト	(1)定期考査 (2)小テスト	
学習状況の観察	(3)自己評価の実施 (4)授業中の活動状況等	
課題の提出状況	(5)課題等の提出状況 (6)ノート・問題集の提出状況	
言語活動の観察	(7)ワークショップなどへの取組状況	
検定試験	(8)検定の取組状況 (9)検定試験や模擬テストの得点	

3 学習の計画

学期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価項目
一 学 期	1章 企業活動とソフトウェア活用 1節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用 2節 ビジネスにおけるソフトウェアの進化	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事例を基にソフトウェアの意義と重要性を理解する。 ソフトウェアの進化が、社会の変化に与える影響を考える学習活動により、関連する知識を身に付け、Society5.0が実現しようとしている社会について考察する。 	(7)(9)
	2章 情報通信ネットワークの活用 1節 情報通信ネットワークの導入と運用 2節 情報資産の保護	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、接続するための基礎的な方法や、システム障害に対処するための基本的な技術を身に付ける。 情報資産を保護するため、リスクを適切に管理する方法について理解し、情報共有の基本的な技術を身に付ける。 	(7)(8)(9)
	3章 表計算ソフトウェアの活用 1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 2節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ 3節 手続きの自動化	<ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計や分析方法、集計した情報から、分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。 表計算ソフトウェアを通して、オペレーションズ・リサーチの基礎を理解し、目的に応じて適切な手法を活用する技術を身に付ける。 マクロの記録機能を用いて、手続きの自動化の考え方を理解し、基本的な技術を身に付ける。 	(7)(8)(9)
二 学 期	4章 データベースソフトウェアの活用 1節 ビジネスとデータベース 2節 データベースの作成と操作 3節 手続きの自動化 4節 データベースの構造 5節 SQLの操作	<ul style="list-style-type: none"> データベースの特徴や基本的な機能を理解し、データベースソフトウェアを活用するための知識と技術について理解する。 フォームを用い、手続きを登録する方法を理解する。 データベースの構造を理解する。また、表を正規化するための手順を理解する。 SQLを用いた汎用的なデータベースの操作方法について理解する。 	(7)(8)(9)
	5章 業務処理用ソフトウェアの活用 1節 グループウェアの活用 2節 販売管理ソフトウェアの活用 3節 給与計算ソフトウェアの活用	<ul style="list-style-type: none"> グループウェアを活用することの利点と活用して効率的に業務を行う方法について理解する。 販売管理ソフトウェアを活用することの利点と活用して効率的に業務を行う方法について理解する。 給与計算ソフトウェアを活用することの利点と効率的に業務を行う方法について理解する。 	(7)
三 学 期	6章 情報システムの開発 1節 システム開発の基礎 2節 アルゴリズムの基礎 3節 情報システムの開発演習	<ul style="list-style-type: none"> 情報システムの開発に関する基礎的な知識、技術について実務に即して理解するとともに、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発と関連付けて理解を深める。 情報システムの開発の中でのプログラミングにおいて、コンピュータに指示を出すための手順であるアルゴリズムについての基礎的な技術や、プログラミングに必要な関連する知識、技術を身に付ける。 ソフトウェアのプログラミング機能を利用した簡易な情報システムの開発を通して、企業活動の改善を科学的な根拠に基づいて、主体的かつ協働的に取り組む姿勢を身に付ける。 	(7)(8)(9)

備考 (1)(2)(3)(4)(5)(6)については、全ての単元において評価項目として用いる。